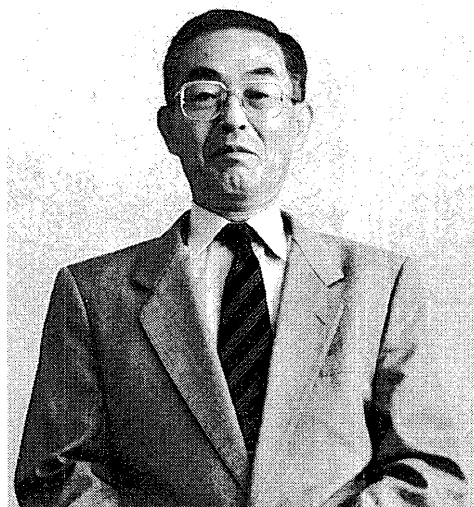


藤郷 森 先生の略歴と業績

略 歴

- 1936年 9 月 兵庫県姫路市に生まれる
- 1964年 3 月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程
(応用化学専攻、燃料化学専修) 修了
- 1964年 4 月 早稲田大学理工学研究所嘱託
- 1967年 5 月 宇都宮大学助手(工学部工業化学科)
- 1988年 4 月 宇都宮大学工学部の改組に伴い応用化学
科に所属換え
- 1989年 6 月 早稲田大学より工学博士の学位を取得
- 1989年12月 宇都宮大学助教授(地域共同研究センター)に配置換え
- 1990年 4 月 宇都宮大学大学院理工学研究科担当、現在に至る
- 1993年10月 宇都宮大学地域共同研究センター副センター長
- 1995年10月 宇都宮大学教授(国際学部)に配置換え、現在に至る
(環境保全論等を担当)
- 1999年 4 月 宇都宮大学大学院国際学研究科担当、現在に至る
- 2002年 3 月 宇都宮大学教授国際学部退官予定



学内活動

「発明委員会」、「組換えDNA実験安全委員会」、「地域共同研究センター運営委員会」、「機器分析センター運営委員会」、「野生生物科学研究センター運営委員会」、「遺伝子実験施設準備委員会」、「環境整備専門委員会」、「廃水・廃液等管理委員会」、「放射性同位元素管理委員会」等の委員として大学運営に寄与された。

研究業績

早稲田大学における研究成果は、「軽質ナフサ及びC₆炭化水素-水蒸気応用ニッケル触媒の研究」(森田 義郎、竹村 安弘、山本 研一、藤郷 森)、早大理工研報告、33、1 (1965)、「石油系炭化水素と炭酸ガスとの高温接触」(森田 義郎、竹村 安弘、斉藤 昌弘、山本 研一、藤郷 森)、早大理工研報告、38、52 (1967) に発表されている。

宇都宮大学工学部においては田中甫教授とともに、栃木県内に産するローカル資源である粘土鉱物類の化学的利用を中心テーマにし、研究対象物として大谷石や鹿沼土に含まれるアロフェンを用い、吸着剤や土壌改良剤等の化学工学的研究を実施された。

鹿沼土に関する研究としては、「赤色膠質土（今市土）の吸着特性とその利用に関する研究」（田中 甫、藤郷 森）、工化誌、71、1137（1968）、「膠質土（アロフェン）中の鉄分の除去に関する研究」（田中 甫、藤郷 森）、日化、1972、481、「膠質土（アロフェン）固定層による二酸化硫黄の吸着特性」（藤郷 森、大野 英人、田中 甫）日化、1973、2021等に報告された。

一方、大谷石に関連しては、「On absorbability of "MISO" contained in OHYA-ISHI」（H. Tohgoh, T. Kawata, H. Tanaka）Clay Science, 6, 43（1983）、「粉碎・分級した大谷石粉末の鉱物組成と吸着能との関係」（藤郷 森、五十畑 達夫）日化、1985、782に掲載された。

一旦中断していた鹿沼土に関連したものとして「Formation Process of Type-A Zeolite by the Treatment of Allophane in Sodium Hydroxide Solution」（H. Tohgoh, H. Tanaka, U. Takasaki & A. Endo）Clay Science, 7, 171（1988）、「ZSM-5 合成における関東ロームの有効性と触媒の特性」（高嵯 裕圭、石沢 昇、吉田 顕彰、渋谷 剛美、藤郷 森、遠藤 敦）日化、1989、324等の論文を発表された。

その他の研究として、種々の粘土鉱物類を含み、しかも大量に排出される浄水場汚泥の化学的利用に関する研究をされた。主な論文として、「浄水場排出汚泥の工業化学的利用－その1－吸着剤への利用」（田中 甫、藤郷 森、望月 惟男）用水と廃水、27、159（1985）、「浄水場排出汚泥の工業化学的利用－その2－触媒への利用」（田中 甫、藤郷 森、元上 章清、望月 惟男）用水と廃水、27、30（1985）、「浄水場排出汚泥の工業化学的利用－その3－窯業原料への利用」（田中 甫、藤郷 森、望月 惟男）用水と廃水、30、12（1985）等がある。

1989年6月、これらの研究成果を「液相吸着法による吸着特性の評価に関する研究－特に大谷石と火山灰土壌について－」として論文にまとめられ、早稲田大学から工学博士の学位を取得された。

国際学部へ移動後、「鹿沼軽石層から分離・分級した非晶質成分の粒子構造」（藤郷 森、高嵯 裕圭、遠藤 敦）国際学部研究論集、1、1（1996）、「鹿沼軽石層から分離・分級した非晶質試料－水酸化ナトリウム水溶液系からのA型ゼオライト生成過程の検討」（藤郷 森、高嵯 裕圭、遠藤 敦）国際学部研究論集、3、1（1997）等を報告されている。

上記の論文を含め80編の論文を発表され、また、口頭発表として日本化学会、化学工学会等で約40件発表され、国内特許を6件保有されている。